



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/14 (月)				スポーツの日			
10/15 (火)	+ 1,000	+ 90,000	+ 91,000	源泉税繰上げ 年金定時払い 国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人)	国債補完供給 CP等買入 + 9,200 ▲ 200	国債買入 + 8,500	日: 鉱工業生産 (8月) 欧: 鉱工業生産 (8月)
10/16 (水)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	流動性供給	共通担保 ▲ 8,000		日: 日銀の安達審議委員、香川県金融経済懇話会に出席
10/17 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				日: 貿易収支 (9月) 米: 小売売上高 欧: CPI (9月) : ECB政策金利発表
10/18 (金)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給			日: CPI (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,700億円増加の540兆3,200億円から始まった。その後、同残高は8日に国債買入を主因に541兆1,300億円まで増加したが、国債発行等の要因により減少し、11日は538兆1,300億円 (速報) で越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.226%~0.390%のレンジ、1M~3M物0.290%~0.350%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、18日にCPI (9月) の公表、海外では17日にユーロ圏CPI (9月) の公表、ECBの政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週初、+0.22%~+0.23%のレンジで取引された。8日は低下し、+0.10%台後半の出合いも見られたが、翌9日は+0.20%から始まり、後場には+0.25%近辺まで上昇した。以降は週末まで+0.235%~+0.25%で取引された。

SC取引は2年460~465回債、5年149~173回債、10年350~376回債、20年180~189回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,600億円で、週間償還額の9,830億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆7,189億円から、10月10日時点で23兆8,342億円に増加した。発行市場は鉄鋼、電気機器、電気業、小売業、建設業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%前半までの出合いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。また、12月末を越える案件は0.30%超での発行が見られた。

来週の償還額は、8,415億円となっている。発行市場は、期明けの発行が一巡し、落ち着いたマーケットになると思われる。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出合い、3M超の案件については0.30%を超える水準での出合いが散見されるであろう。

<TDB>

9日の6M (1261回債) の入札は、最高落札利回り0.0862% (前回債0.0907%)、平均落札利回り0.0702% (前回債0.0867%) となった。

11日の3M (1262回債) の入札は、最高落札利回り0.0131% (前回債0.0202%)、平均落札利回り0.0067% (前回債0.0073%) となった。

来週の入札は、17日に1Y、18日に3Mが予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50